

経営比較分析表（令和4年度決算）

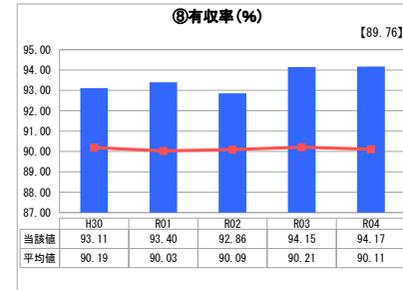
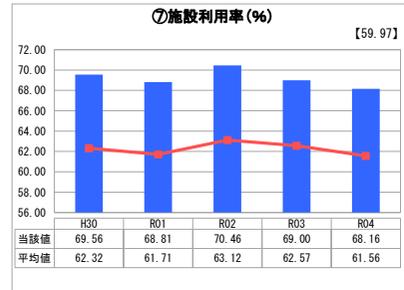
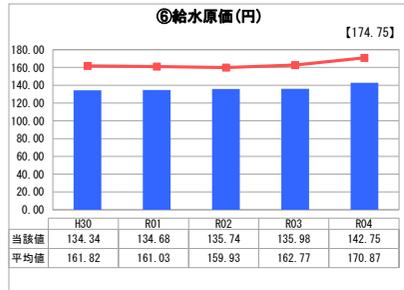
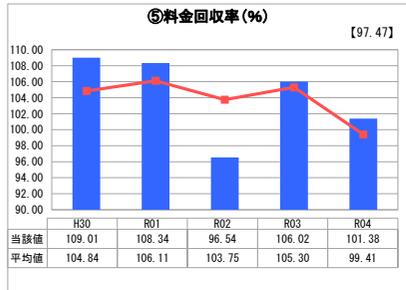
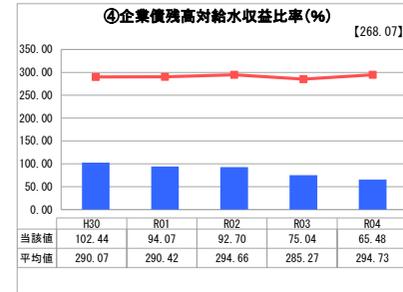
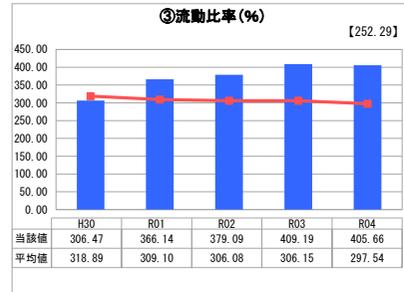
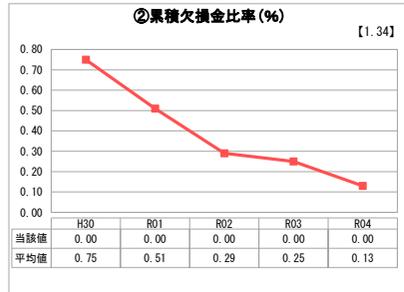
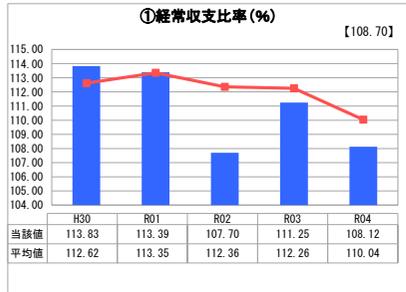
大阪府 和泉市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	90.57	98.51	2,574	

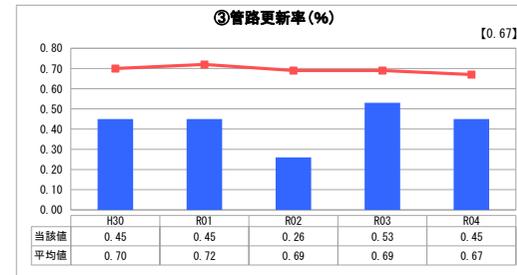
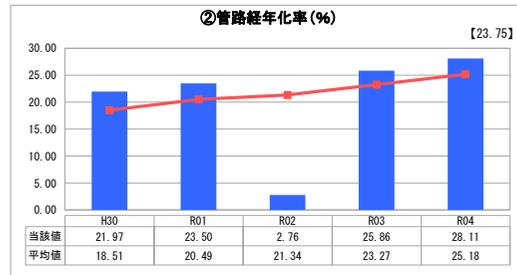
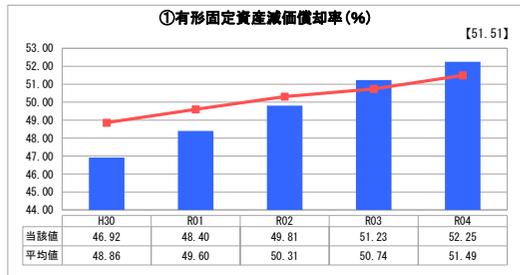
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
183,761	84.98	2,162.40
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
180,483	70.92	2,544.88

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率は、給水収益、長期前受金戻入の増加及び減価償却費等の費用の減少により類似団体平均値（以下、平均値）を下回っていますが、単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっています。
- ②累積欠損金は発生していません。
- ③流動比率は、前年度から微減しているものの、年々増加しており、令和元年度で平均値を上回り、支払いに備えて現金等を十分に確保できています。
- ④企業債残高対給水収益比率については、企業債の発行を抑制していることから、平均値よりも大幅に低く、負担軽減に努めています。
- ⑤料金回収率は、平均値を上回っており、給水収益で給水費用を賄うことができています。
- ⑥給水原価については、動力費等費用の増加及び長期前受金戻入の減少により、昨年度と比較し高くなっていますが、平均値よりも下回っています。
- ⑦施設利用率は平均値を上回っていますが、より適切な水準を維持できるよう努めます。
- ⑧有収率は、前年度よりも若干改善していますが、引き続き良好な状況になるよう努めます。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率については、平均値を上回っており、施設、管路の老朽化が進んでいます。
- ②管路経年化率は、平均値を上回っており、管路の老朽化が進んでいます。
- ③管路更新率については、計画的に更新を進めていますが、平均更新率を下回っており、更なる加速化が必要となっています。
(R2・R3の管路経年化率は、左表では2.76%・25.86%となっていますが、精査した結果、本来の値は27.42%・28.57%となります。)

全体総括

経営の健全性・効率性に関する各指標に関して、類似団体平均値と比べると、引き続き高い水準を維持していますが、老朽化の状況については、年々進んでいます。
人口減少等により、収益が一層厳しくなることが想定され、また管路の更新速度を上げていくには多額の費用を要することから、現状の経営状態を維持することが今後難しくなると考えられます。
将来にわたって安定的に事業を継続していくために、今後も経営戦略に基づき経営の効率化を推進するとともに、企業債の借入、資金運用等を行い、水道ビジョンに基づく管路、施設の更新工事を進めていきます。